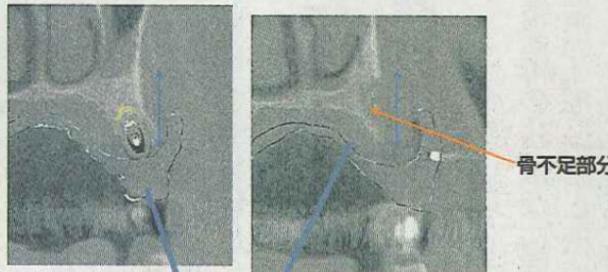


安全で低侵襲なインプラント手術のために

かりません。歯肉から
みた外形はかならずし
も、その中の骨の形を
反映しているわけでは
ありません。



上はCTによる骨の断面図。
下はCTデータから起こした3D画像
左右とも通常のレントゲンでは同じ
ように表現される。
しかし右の方は外側が陥没し、
大きく骨が不足している。
CT撮影しなければ、事前にこの
骨の状態を把握するのは難しく、
実際の手術時にははじめて分かる
ことになる。

ルーセントテクノロジ
クリニック 名古屋市
西区牛島町6の1・名
古屋ルーセントタワー
3階、電話052・9
08・85515、E
L www.lucent-d.c
om。

CT撮影は患者さんを守るだけでなく、術者である私達をも予想外の事故から守ってくれます。手術中の私達のストレスも大幅に軽減します。CTなしのインプラント埋入は、海図なしで航海に出るようなものです。

ント手
00年ニスか
うです。
インプラン
トを埋入する

CT撮影をためらわ
せる要因は、自院にC
Tがない場合、外の病
院に依頼する手間と、
患者さんにも撮影に行
く時間と手間がかかる
こと、撮影料が別途か
るためには、時間と手間だ
けが大きな理由と考え
ていいでしょ。

**C T撮影は100%必要
予想外の事故を回避**

インプラントのトラブルについて前回より述べていますが、その中でやはり外科的な偶発症は最も危険で避けなければならないトラブルです。これを避けるためにはCT撮影は必須です。100%どんなケースでも必要だと断言できます。歯科インプラントの世界でCT撮影が当たり前になってきたのは20年に過ぎません。安全性と低侵襲を目指すにはCTは欠かせないのです。

術後の腫れや痛みの程度は、歯肉の剥離（はくり）の大きさと骨の切削量に依存します。インプラント埋入のものは、それほど腫れや痛みに影響ありません。安全性と低侵襲を目指すにはCTは欠かせないです。

かること。CT撮影に
よる被爆などが考えら
れます。ただ被爆量は
かなり抑えられてい
て、撮影することのメ
リットを考えると、撮
影していませんが、高価で
場所もとるので、どの
歯科医院でも導入とい
うわけにはいきませ
ん。しかし、手間がかかる
つても、患者さんに十
分理解してもらう

ルーセントデンタル
クリニック院長

後藤 英夫

= 18 =

大人のための 歯科治療の新潮流 ～インプラントのトラ ンジション～

ルーセントデンタル
クリニック院長



卒業。名古屋大学医学部遺伝子再生医療センター
一医員、国立長寿医療センター歯科口腔外科勤務などを経て、2008年からルーセントデンタルクリニック副院長。2011年から院長。